



いで病院を受診してしまつと、本当に重症な方のために過酷な労働をしている医師が、さらに軽い症状の方も見なくてはならなくなる。それによって過労で医師が倒れてしまつたりすると重症の方も見る人がいなくなつてしまふ……という話です。

しかし、実は、医療崩壊はかなり前から始まつていたのです。その結果起きているのが大病院の「3分診療」や小児科医、救急医の不足問題、さらに医療費の増大です。

僕たちの世代以上の方は分かると思いますが、昔、風邪で病院に行きましたか？ちよつと発熱して救急車を呼ぼうと思いましたが？今の医療の深刻な問題は、「しっかり栄養を

とつて暖かくして早めに寝る」だけでいい人が病院や診療室に来ることです。その方が医療機関に来られると、医師だけでなく受付であつたり看護師であつたりが時間を取られます。その結果、受診した本人は睡眠時間も取られて病人の集まる病院に行つて疲労し、逆に感染したりする



し、医療者は時間を取られ（診療だけでなく書類を書いたりも含めて）、医療費は増大する。何一ついいことないのに「不安だから」行つてしまふ。実はこれが現実です。

奇しくも今回の「不要不急の外出は避ける」、「軽症者は自宅待機」、「予防のために手洗いの励行」というのは今に始まつたことではなく、日常から言わなければならなかつた

ことなのです。こんな騒動ですが、より良い社会のために考えることはたくさんありますね。

読書

すっかり時間ができてしまい、外出もままならない中、読書の機会が増えています……と言っても少しですが。紙媒体2・電子書籍8の割合なのです。最近はどういう本が紙媒体に向いているのか少しわかってきました。と言うより、電子書籍を意識した本も多くなつていくように感じました。内容が濃い本はやはり紙のもの、雑誌や割と軽い内容のものは電子書籍でざつと見る程度かなあと思います。